

1 吸引関係の事例 ～排液ボトルについて～

発生時の状況と経過

児童は食後に医療的ケア室で吸引を行い、教室に戻った。その後、教員が吸引バッグ内の水漏れに気付いたため、看護師が確認すると、吸引バッグ内に白色透明の水が溜まっていた。排液ボトルを調べると、蓋が緩んでいてボトルの下にも水が溜まっていた。

発生時の対応と処置

すぐに吸引器をバッグから取り出し、吸引器の水滴を拭いた。吸引器自体はさほど濡れてはおらず、スイッチを入れると正常に作動した。

バッグの中身(カニューレなど)を全て取り出し、水を捨て、ドライヤーで乾かした。保護者には経緯を説明した。

考えられる原因や背景

排液ボトルの蓋が完全に閉まっていなかった。いつの時点で緩んだのかは不明だが、吸引バッグを持ち運ぶときに傾けてしまったことが排液ボトルから水漏れした原因だと考えられる。(吸引した量よりもボトル内の排水が少なかった)

再発防止に向けた対策・改善点

- ・看護師がケアの前・途中に吸引圧が正常であることを確認する。
- ・教員が吸引バッグを持ち運ぶ際に、水平を保つようにする。
- ・保護者に排液ボトルの蓋のゆるみや漏れがないか、確認を再度お願いする。

ポイント！

○排液ボトルは移動時、バッグに入れるときは、倒れること、こぼれることは起こり得る事です。移動時やバックに入れるときは、少量であっても廃棄し空にしておく心がけましょう。